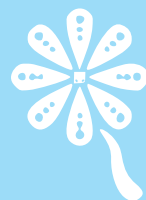


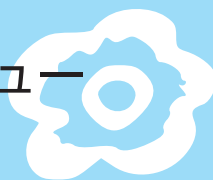
CHALLENGE REPORT



三重県男女共同参画推進サポーター活動報告集



- サポーター活動紹介
- ロールモデルインタビュー
- 名張市長インタビュー



三重県



はじめに

いま国内では、経済情勢の悪化や、少子高齢化の一層の進展など社会情勢が大きく変化しています。これらの変化に対応し、活力ある社会を築いていくためには、男女がともに意欲や能力に応じて社会のあらゆる分野で活躍することが不可欠です。

しかし、とりわけ女性は、人口の半分を占め、世界最長寿の健康に恵まれるとともに、世界有数の高い教育を受けているにもかかわらず、その能力が社会で十分に活かされているとはいえません。

このため、三重県では、女性の社会参画に対する支援を通じて、自己の意欲や能力を十分発揮出来る社会づくりへの取組を進めています。

その取組の一つとして、この報告集では、三重県男女共同参画推進サポーターが行った活動や、県内で活躍している方々のインタビューをご紹介します。また、最も身近な自治体の長である市長が男女共同参画について語った「名張市長インタビュー」の内容も掲載しています。

この冊子が、社会での活躍を考えている方にとって、新たな一歩を踏み出すきっかけになれば幸いです。

目次

○男女共同参画推進サポーター活動紹介	
事例1 防災アンケート 鈴亀地域サポーター	2
事例2 わくわくフェスタに参加しました!!	
松阪多気地域サポーター	5
事例3 多様であることを大切に。	
伊勢・鳥羽・志摩を彩る活動	
南勢志摩地域サポーター	8
○ロールモデルインタビュー	
事例1 おやじの会 学校	13
事例2 カンガールム 病児保育	15
事例3 わあむ津 紙芝居部 啓発	17
事例4 堀内久子さん 人	20
事例5 子どもステーションくまの	
子育て (紀南地域)	22
○三重県男女共同参画推進サポーターについて	24
○名張市長インタビュー	26

男女共同参画推進サポーター活動紹介

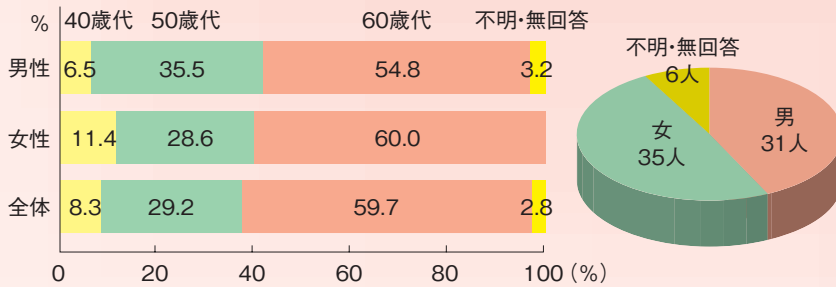
男女共同参画の視点から見た 防災アンケート

平成23年3月11日に発生した東日本大震災。今、三重県においても大規模な地震の発生が懸念されています。鈴鹿地域男女共同参画推進サポーターは「地震発生時の男女共同参画の視点から見たニーズを把握して、身の周りの防災について考えるきっかけをつくりたい」という思いから、「男女共同参画の視点から見た防災アンケート」を作成しました。そして、平成24年1月21日にジェフリーすずかで開催された、鈴鹿市主催のパネルディスカッション「女性も参画する鈴鹿の災害に対する体制づくりを」にて、参加者を対象とした調査を実施しました。

なお、このアンケートは、男女共同参画からみた防災に関心のある方を対象としたものであり、必ずしも全体の傾向と一致するものではありません。

回答者数は男性31名（43.0%）、女性35名（48.6%）、不明・無回答6名（8.3%）の計72名でした。年代別では、40歳代が6名（8.3%）、50歳代が21名（29.2%）、60歳代が35名（48.6%）、不明・無回答6名（8.3%）の計72名でした。

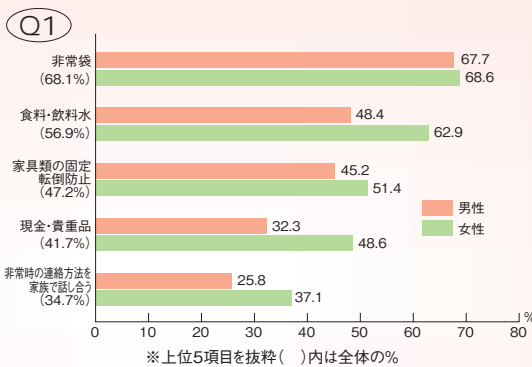
回答者の属性



2%）、60歳以上が43名（59.7%）、不明無回答が2名（2.8%）でした。
○アンケート結果概要

Q1 あなたの家では地震に備えて何か準備をしていますか。

全体では、「非常袋（ラジオ、懐中電灯、医薬品など）」と答えた方が68.1%と最も多く、男女ともに準備されている方が多いという結果になりました。



2番目に多い項目は、「非常用の食料・飲料水」(56.9%)で、次いで、「家具類の固定・転倒防止」(47.2%)、「現金・通帳等の貴重品をまとめておく」(41.7%)、「非常時の連絡方法などを家族で話し合う」(34.7%)でした。

ほとんどの項目で、女性が男性

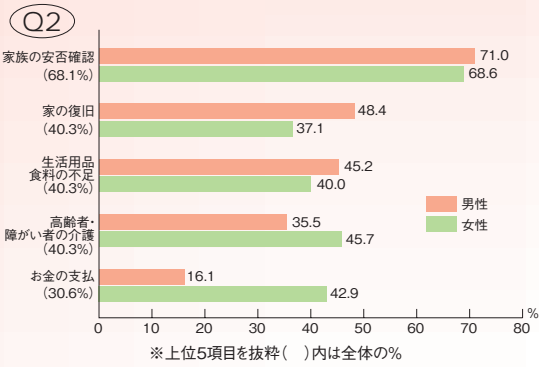
を上回りましたが、ハード面の対策である「建物の補強」(男性：16.1%、女性：5.7%)と「ガラス窓に保護シールを貼る」(男性：16.1%、女性：8.6%)では、準備をしていると答えた男性が、女性を上回りました。

その他のご意見としては、「これから近所で協力関係を作っていきたい」、「無線で仲間や家族と連絡をとる」といったものがありました。



Activity

男女別でみると、「家族の安否確認」に次いで多い回答が、男性では「家の復旧」(48.4%)、女性では「高齢者・障がい者の介護」(45.7%)となりました。また、「お金を持ち出せなかった時の支払い」と「子どもたちのストレス」の項目では、それぞれ26.8%、16.4%女性が男性を上回る結果



Q2 被災時に困ると予想される事は何ですか。
全体では、「家族の安否確認」と答えた方が68.1%と最も多く、男女ともに選択された方が多いという結果になりました。

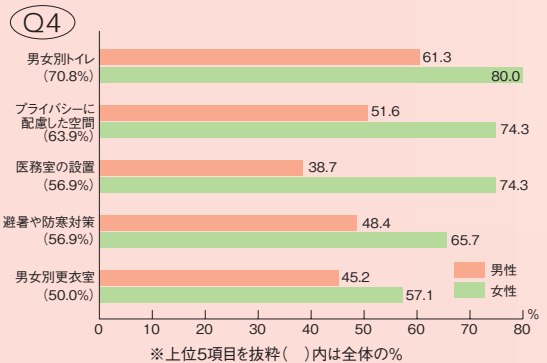
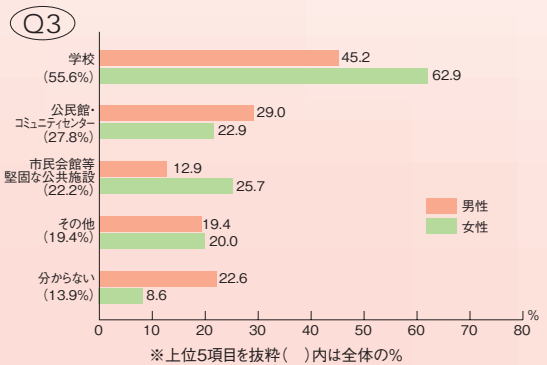
「学校」と答えた方が55.6%と最も多く、学校や公民館、市民会館等の公共施設を選択された方が多数を占めました。
その他には、「地震発生時にどこにいるか分からないので、(その時)どこに避難すればいいのかわからないか、どう行動すべきなのかわかるようにして欲しい」といったご意見がありました。

Q3 大地震が発生した場合、あなたはどこに避難しますか。



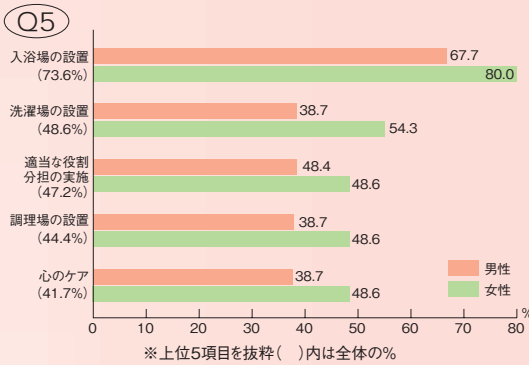
となりました。

Q4 あなたが避難所に希望することは何ですか。
「男女別トイレの設置」(70.8%)、「プライバシーに配慮した空間(仕切り等)」(63.9%)と答える方が多く、特徴的な部分としては「医務室の設置(保健師などの派遣)」、「替えの下着(豊富なサイズ)」の項目で、それぞれ35.6%、32.5%女性が男性を上回る結果となりました。



Q5 避難所生活が長期化した際に希望することは何ですか。

男女ともに「入浴場の設置」(73.6%)と答えた方が最も多く、次いで「洗濯場の設置」(48.6%)、「適切な役割分担の実施」(47.2%)、「調理場の設置」(44.4%)、「心のケア」(41.7%)となつていきます。その他には、「健康を維持するための体操」、「自分たちで出来ることはする」といった意見がありました。



○自由意見

アンケート項目の他にも、多くのご意見をいただきました。その抜粋をご紹介します。

「男性女性お互いが出来ることを協力し合つて行動すべきだと思います」(50歳代男性)、「平時から防災活動に女性の視点を入れることで、非常時にそれらが機能すると思います」(60歳以上女性)、「男女共同参画は必要と思いますが、共通の役割の中で力の必要な仕事も男性同様に女性にやらせるのはどうか」(60歳以上男性)、「授乳トイレ、着替えなど、乳児連れのお母さんが安心して利用できる専用スペースが欲しい」(60歳以上男性)、「マンションに住んでいます、今まで一度も避難訓練の話は聞かされていません、テレビ等で得た知識しかなく、心配です」(60歳以上女性)。

この他にも、自治会への女性の参画や女性消防団への期待の声等、たくさんのご意見をいただきました。

○アンケート調査を終えて

今回のシンポジウムとアンケートは、タイムリーな話題であり、

参加者が防災を切実な問題として捉えていることを感じました。アンケート結果では、Q1の「地震に対する備え」に関する質問で、「近所との協力関係が作れている」(18.1%)と答えた方が少ないことが気になりました。災害が起きた時は、自助はもちろんですが、共助(協助)が大切だと思います。

(亀山市 一見八郎SP)

シンポジウムはたくさんの方が出席されており、より具体的な場での男女共同参画の実態が学べたように思います。アンケートの作成は、他の調査等を参考にしつつ、その上から必要と思われる項目を付加していったことで、より網羅したものが出来上がったのではないのでしょうか。結果を見ると、納得のいくもので、これからの避難所運営等に大いに参考にして欲しいと思います。

(亀山市 佐野孝子SP)

シンポジウムの参加者の年代をみると、60歳以上が半分以上を占めており、年配の方々の関心の高さがうかがえました。

Q1では「何もしていない」と

答えた方が8.3%と、県が昨年行った調査と比べて、今回の出席者の関心の高いことを示していると思います。Q2については、「高齢者・障がい者の介護」で男性よりも女性の方が多いことから、「介護は女性のするもの」と考えている男性が多いからだろうかと思われました。Q4、Q5の回答をみると、女性や高齢者、子どもに対する配慮、男女共同参画の視点での気配りが求められていることを表しているのではないのでしょうか。

災害復興時には、アンケートにも現れているように、男女共同参画の課題が顕著になり、誰もが被災者になりうるので、一人ひとりが持つ力を十分に発揮することの出来る明日を築くためにも、平時から女性の視点も入れたまちづくりが大切だと思います。

(鈴鹿市 寺井和子SP)

多様でものづくりを大切に。

伊勢・鳥羽・志摩を彩る活動

南勢志摩地域は、サポーター（SP）の数も8人と大所帯です。第1回目の地域会議を開催し情報交換をする中で、男女共同参画の推進といってもその取り組み方の切り口は多方面にわたると同様、SP各々の背景の違いから現在興味のある分野も多岐にわたることがわかりました。そこで互いに情報提供を行いながら、各市単位での活動を基本に進めてきたところ、23年度の伊勢・鳥羽・志摩の活動は多様で活発なものとなりました。

【伊勢】

●奥野三智子SPは、伊勢市から男女共同参画を推進するための事業の企画・運営を委託されている「男女共同参画れいんぼう伊勢」の一員として活躍しています。れいんぼう伊勢では、平成23年度は「今年はもっと男性の参加を」と、5月：「だれでもできる介助講座」（参加者：22名）

6月：三重県内男女共同参画連携映画展2011「武士の会計簿」上映会（参加者：344名）
7月：パートナーの日啓発事業「笠井信輔 講演会」（参加者：350名）
10月：「男性もできるヘルシー料理教室」（参加者：16名）
11月：縁結び応援事業「うましくに伊勢 出逢いのレストラン」（参加者：59名）
2月：イクメン講座part1「子ども遊び場 パパのしゃべり場」を実施し、精力的に活動しました。奥野SPは、幅広い情報や行動力を生かして、事業実施の際には材料の買いや新聞づくりなど、なくてはならない存在になっていきます。

れいんぼう伊勢の活動のほかには、伊勢市役所の総合案内を担っている市民グループ「ハーモイセ

（山川一子代表）のメンバーの一員として、来庁された市民を笑顔でお迎えし、担当課へと橋渡しをする活動もしています。親しみやすい案内は、市民にとっても好評です。

その他にも、商店街の活性化と人の輪づくりを目的に、空き店舗を活用した手づくりショップ「ふくふくハーモ」（高柳商店街）の運営に携わったり、息抜きとして太極拳サークルで体を動かしながら、いろいろな世代の方と交流しています。市・県などが開催する講演会、研修会などにも積極的に参加し、自己研鑽を積んできました。2月には大津市で開催された「ファザリング全国フォーラム in しが」にも参加しています。奥野SP：今後も、市民の目線で、みんなが生きやすい社会になるよういろいろな視点から男女共同参画を勉強し、多様な活動を実施し

ていきたいと思えます。」

●山本はるみSPは、伊勢市に女性課が出来た頃から男女共同参画に関わっていますが、男女共同参画に関する活動のほか、伊勢市国際交流協会副会長や、伊勢市消防団の一員としても活躍しています。

子ども向けに防災ソング

伊勢市消防団本部の女性団員 マスコット「いせりい」も手作り



いせりいを囲む女性消防団のメンバー

3. 11の東日本大震災を受けて、山本SPは、平成23年11月4日（水）に、伊勢市女性消防団の研修会を企画、伊勢市役所で開催しました。まずは、三重県男女共同参画・NPO室職員から、福島での避難所・仮設住宅での取組内容等を紹介しながら、男女共同参画の視点からの防災・復興について話

をしました。次に、「子育て応援!!
0.1.2.3サークル(山本道子
代表)」による、子ども向け防災教
室の内容のデモンストレーション
です。なまず音頭や紙芝居、カル
タの実施、新聞でのスリッパ作り
や、防災グッズの紹介、ガラス破
片を模した玉子の殻の上を歩くな
ど、防災教室の主催者側として色々
な手法の紹介が行われました。子
育て応援!!0.1.2.3サークル
は、「第15回防災まちづくり大賞」
(消防科学総合センターなど主催)
消防庁長官賞を受賞しています。

こうした研修を踏まえ、伊勢市
女性消防団は今年度、地域への防
災啓発の歌と踊りを完成させまし
た。この歌と踊りを使って楽しく、
伊勢市民の防災意識向上に向けて、
さらに活躍の場を広げようとして
います。

【鳥羽】

濱口和美SP、広野克子SP、
野村薫SPは毎月1回のペースで
集まり、勉強会を重ねてきました
(鳥羽女子会(仮称)・計11回)。2
月には団体名を「T.O.C.5(トッ
クファイブ)」に決定! 23年度の
活動から主なものを振り返ります。
●第4回(平成23年10月19日(水))

14:00~17:00)

ゲスト…(株)地域資源バンクN-U
西井勢津子さん

内容…西井さんはH22年に多気町
丹生で農山村での仕事おこしのお
手伝いを業として起業。福島県飯
舘村の「までの力」(※)を学ぶ
『までのいこまなぶ。プロジェクト』
の紹介がありました。その後、こ
の企画で鳥羽女子会が連携します。
(※)『までのい』とは、「手間ひまを
惜しまず」「丁寧」に「心を込めて」
という意味。

●第7回(平成24年1月25日(水))
11:30~16:30)

場所…「せいわの里まめや」と
(株)地域資源バンクN-U
内容…「鳥羽を飛び出し、多気町丹
生に行ってみよう!」。

大阪多気地域SPの皆さんにも
声をかけ、合同開催となりました。

「せいわの里まめや」を訪問(レ
ストラン・直売所)・昼食の後、(株)
地域資源バンクN-UとNPO法
人起業支援ネット三重事務所が協
働で、毎月第4水曜日に開催して
いる「仕事おこし、自分おこしサ
ロン」に参加。地域に対する思い
あふれる方々が集まり、賑やかな
サロンとなりました。パワフルな



女性は、よくしゃべり、よく食べ、
よく笑う!

サロン終了後、2月21日の「ハ
ツノさんと歩く!村のおんなツ
アー」の打ち合わせ。※この縁で
多気町からの有志が伊勢・鳥羽で
のハツノさんツアーにも参加しま
した。

●第10回(日時:2月21日(火))
「ハツノさんが歩く、村のおんなツ
アー」

全村避難となっている福島県飯
舘村から「佐野ハツノさん」とい
う一人の女性を、三重にお迎えし
ました。

ハツノさんは、今から約20年前、
「飯舘のヨメ、ヨーロッパへ飛び

(村主催の女性海外派遣事業)の
「若妻の翼」第1期生の一人とな
り、旅から帰って、羽ばたき始め
ました。「いいたてふるさと織里音
(オリオン)の会」を立ち上げ、ま
た村の農業委員になり、3期目には
女性として全国初となる農業委
員会会長も務めます。自宅で「民
宿どうげ」を始めていたところに、
東日本大震災が起こりました。現
在は、福島市内の仮設住宅で管理
人(住民のお世話役)を引き受け
ながら、村の絆を守ろうとしてい
ます。

こうした活動をしてきたハツノ
さんから、飯舘村の「までの力」
を学び、ハツノさんを通じて、『自
らの意思と足で立ってきた村の女
性の生き方、それがどれほど輝き
を放っているか』、メッセージを残
していくこのツアーで、鳥羽市で
は海女小屋「はちまなかまど」の
80歳現役海女の野村禮子さんと、
「までの力」で前を向き続ける佐
野ハツノさんが出会いました!

※これは、(株)地域資源バンク
N-Uと三重県男女共同参画・N
PO室との協働企画に、各地域の
力を借りて実施されたものです。
伊勢・鳥羽の地域で参画し、ホス

Activity

ト役を担ったのが、濱口SP、広野SP、野村SPの3人でした。
 行程① 9:15~10:45 [伊勢市] 『伊勢神宮参拝とおかげ横丁散策』ガイドボランティアの広野SPによるご案内！



行程② 12:00~13:30 ランチタイム『海女小屋体験！』〔鳥羽市相差〕海女小屋「はちまなかまご」野村禮子氏を訪ねて。
 場所：三重県鳥羽市畔蛸町3-3 兵吉屋はちまなかまご・あさり浜
 ハッソさんと禮子さんの出会いの場に、地域を思い活躍している女性たちも集い、交流し、互いのがんばりをたたえ合い、次への活力へとつなげました。
 この場では濱口SPから、鳥羽



女子会（仮称）改め、正式名称のお披露目も実施。

名前は「TOCS」（トック・ファイブ）です。TOは「TOBA（トバ）」のTO、CSは「Creative Communication、Culture Collaboration、Care」のCCO。鳥羽に対する思いと5つのCに盛りだくさんの意味を込めています。It's Cool（かっこいい）名前です！
【志摩】
 ●志摩市で男女共同参画に関わる先輩インタビューー

今年度から新たにサポーターになった加藤玲子SPと相田めぐみSP。まずは、地元で男女共同参画に関わる先輩、志摩市男女共同参画推進懇話会委員の善積智子さんにお話を伺いました。（平成23年10月1日（土））

最初に善積さんが男女共同参画に関わるようになったきっかけを質問。大阪で暮らしていた頃の、小西綾さん、駒尺喜美さん（元法政大学教授。故人）との出会いから、ウーマンズスクールや大阪女子大心理療法センター等での学び、その後、駒尺喜美さんの依頼を受けて1994年に「こに・コマ相談室」を大阪の江坂に開設したこと、講演活動など、これまでの歩みについて伺いました。
 様々な学びの場に出かけ、多くの人と出会ってきた善積さんは、「人間関係は豊かな方がいい。人



生の登場人物が少ないと、その中で無理にやりくりしようとするから。」また、「せつかくの出会いを良いご縁に育てていくためには努力も必要よ」とも言われました。

大阪から志摩市に本格的に居を移してからは、「信頼関係を作るには時間がかかる」ということを十分承知しているからこそ、「今、自分が手伝えることを積極的に」と、公民館ではヨガを教えたり、ご近所さんには朗読や読み聞かせを教えたりしています。また観光協会に提案した、地域の活性化と5町を深く知るため勉強会が「観光ガイド養成講座」に発展する等、人と人をつなげながら、新しい関

係性をこの志摩でもコツコツとつ
くってみえます。

次の世代へのメッセージ・アド
バイスを伺ったところ、「私たちは、
『多くのしんどさ』も上の世代から
引き継がされた。それは違うかな
らと思って。何かを教えるというよ
り、押し付けない存在でいたい。
楽しそうに生きている姿を見ても
らえればいいかな。年をとるのは
思いの外、悪くないわよ。」と答え
る善積さん。その言葉が、私たち
を勇気づけます。

『山の幸、海の幸、人の幸。』い
つも笑顔を絶やさない善積さんは、
志摩の『人の幸』をさらに豊かに
し、横のつながりを広げて、自ら
の人生も幸多くしていけること
でしょう。

く先輩インタビューを終えてく

○相田めぐみSP

善積さんと私は、同じ関西から
の移住者です。居住年数や家族構
成は違いますが、移り住んだこの
街に対する思いで共感出来ること
も有り、知り合って6年程たち
ますが、今も時々熱く語り合っ
たりしています。私の目標は、移住
者の多いこのエリアで人の繋がり



を作り、街の活性化に少しでも役
に立てるような活動をしていく事
です。こんなパワフルな方が側に
いるのだから、これからも語り合
い、男女共同参画の先輩、又人生
の先輩として、色々教えてもらい
たいと思います。

○加藤玲子SP

善積さんと出会って少ししか時
間が経っていませんが、私にとっ
てはすでにとても大きな存在に
なっていました。善積さんとお会
いした後は、元気がすこく出るし、
心地のいい厳しさも感じて、「よし、
がんばろう」と気持ちが前向きに
なります。そういう元気をこれま

で与えてくれていた善積さんだか
ら、きっと経験も豊富なだろう
なと思ってはいたのですが、それ
以上でした。インタビューの際の
驚きを大切にして、いろいろ勉強
し、私もいつか誰かのためになる
存在になればいいなと強く思い
ました。

●平成23年度志摩市男女共同参画
推進事業「妻が倒れた！さあどう
する？」

インタビュー実施後、相田SP、
加藤SPは、フレンテみえが実施
した「地域リーダー養成講座 連
携・協働による実践プログラムin
三重 グループ③(南勢志摩地域)」
に参画しました。「男性への男女共
同参画の浸透」を課題としたグルー
プの企画は、志摩市の事業として
実施されることになり、SPの二
人もスタッフとして携わりました。
日時：第1回(平成24年2月2
日(木))10:00~15:00)、第2回
(2月9日(木))13:30~15:30
場所：志摩市阿児アリーナ
参加者：志摩市・鳥羽市在住男性
約20名

市民スタッフは、SPの二人が
先輩インタビューをさせていただ
いた善積智子さん、鳥羽の濱口S



P、相田SP、加藤SPです。

1回目は料理講座(昼食作り)
と男女共同参画講座。2回目は介
護の学習。昼食作りと介護につい
て楽しく学習をしながら、仲間作
りを行うもので、参加者の満足度
もとても高いものでした。

第6回 子育て応援

わくわくフェスタに参加しました～!!

参加サポーター

菅原潤子（松阪市）・伊藤直子（松阪市）・岡井一代（多気町）



多気町消防団
女性消防隊 コスモス隊

平成18年4月1日結成。主な活動として、子どもからお年寄りへの防災啓発、各種イベントへの参加、火災現場での後方支援など。紙芝居は、防火活動の一環として上演している。

現在、サポーター岡井一代（写真右から2番目・ピンクの衣装）隊長とし、以下14名で活動を行っている。

はるくま*おはなしのたね
平成21年、環境に関する紙芝居の読み手募集をきっかけに結成。柔軟な心をもつ子どもたちに、歌や紙芝居を楽しんでもらいながら、何かを感じ取ってもらおう機会や考えるきっかけにしてみたい。と、サポーター菅原潤子（写真左）と、鈴木晴美さん（写真右）の2人で活動を続けている。

エプロンシアター、オリジナル紙芝居、絵本の読み聞かせなどを行っている。



2012年1月14日（土）、15日（日）の両日、メッセウイングみえにおいて、「第6回子育て応援わくわくフェスタ」が開催されました。松阪多気地域男女共同参画推進サポーターは、三重県男女共同参画センター「フレんてみえ」のブースにて、普段、自分たちが取り組んでいる活動を通じて男女共同参画の啓発、そしてこのイベントの大きなテーマである「子育て応援」を目的とし、参加しました。





1月14日(土) (1日目)
 多気町消防団
 女性消防隊 コスモス隊
 紙芝居「コスモス隊のびよんくう
 トラの火の用心」
 サポーターの岡井隊長が「メイ
 先生」に扮し、子どもたちへ防災
 啓発を行いました。「メイ先生」の
 軽妙なおしゃべりに子どもたちだ
 けでなく、一緒にいた大人達も熱
 心に聞き入っていました。

はるくま*おはなしのたね
 手遊び「はじまるよ」に始まり、
 大型絵本「だるまさんの」「紙芝居
 「いいものみつけた」のほか、はる
 くま自作のエプロンシアター「た
 ねたねたねっ!」、絵本「はるの
 たね」の読み聞かせを行いました。
 はるくま絵本「はるのたね」では、
 作者のくまくまさん(菅原サポー
 ター)のほのぼのとした動物たち
 の絵に、子どもも大人も大喜びで
 した。



1月15日(日)(2日目)

1日目に引き続き、手遊びから始まり、絵本「ちがうってすてきだね」の読み聞かせ、はるくま紙芝居「いただきます」を上演しました。

たくさんのおみなさんに楽しんでいただくことができました。



インタビュー

おやじの会

桑名市大山田地区にある大山田

南小学校。ここには、少しめずらしい、お父さんたちが立ち上げた「おやじの会」というグループがあります。既存のPTA活動の枠にはとらわれない、自由に楽しさのあふれる活動を紹介いたします。



立ち上げのきっかけは？

「うー、大山田地区というのは、日本住宅公団（現都市基盤整備公団）の開発によってできた団地で、古くからのつながりがないところ・・・いわば「寄せ集めの地区」なんです。サラリーマンの家庭が多く、朝早く高速バスで名古屋に出勤し、夜遅くに帰って来て缶ビールを飲んで寝る。定年後、『さて何をしようかな』と思った時に、地域に友達もない、知り合いもない・・・そんな老後はさみしいなと思ったんです。仕事を辞めた時に、自分の子どもたちが通った小学校で、いっしょに活動した仲間がいれば楽しいだろうなと考え、この会ができました。」

また、ここ南小でのPTA活動はお母さんたちが中心となることが多いんです。『お父さんもPTAの会員なんだぞ！』という意識を高めようというねらいもありました。

呼びかけは、3年前のPTA会長と教頭先生です。子どもたちを



通して活動お知らせを配布してもらい、参加者を募りました。」

構成メンバーは？

「在籍しているのは男性PTA会員14〜15名でしょうか。特に名簿で管理しているわけではありません。教頭先生には毎回参加してもらっています。」

主な活動内容は？

「草刈やペンキ塗り、力仕事など。木の根っこを掘り上げたこともありました。学校からの要求に合わせて、そのつど作業内容を決めています。」



取材に伺った日は、教室の本棚の固定、机の天板の取り換え、高い窓のシールはがし、雨どいの掃除などが行われました。子どもたちがより快適・安全に過ごせるよう、作業はすすめられました。皆さんの参加のきっかけを教えてください

「なんだか楽しそうだなあと思って、気軽に参加しました。やってみたら、やっぱり楽しかった！」
「1年前に引越してきました。転入した子どもも学校がすごく楽しいと喜んで通っています。そんな学校に対して、自分も何かでき

たら良いなと思って参加しました。」

「機会があれば、何か学校に奉仕のようないことができるんじゃないかと思って。」

「他の地域から松ノ木に来たので、友達欲しくこの会に入りました。」

「ずっと気になっていました。授業参観で他のメンバーに誘われたので、思い切って参加しました。」



会に参加して、いかがでしたか？

「すごく楽しかった。」

「子どもが『お父さん、今日は何をしてきたの？』と興味を持って

聞いてくる。遊具のペンキ塗りをした後など、『きれいになってたよ！』と嬉しそうに報告してくれている。」

「授業参観などで学校に出向いたとき、自分の仲間がいて、気軽に声をかけられます。」

「今まで、担任の先生の顔はわかるけど、他の先生は良く知らないままだった。一緒に活動することで、先生方と人間的なつながりができる。」

「正直、仕事に行くより楽しいです。」

「いままで話したこともない校長先生から、『木を切っていたいてあげるとございました』と声をかけられました。びっくりしたけれど、嬉しかったですね。」

「父親は、運動会や授業参観くらいしか学校に来る機会がない。活動を通して、先生方に顔を覚えてもらった。」

今後の展望は？

「2カ月に1回の今のペースで、がんばりすぎずに自然に続けていけたらいいですね。あんまり難しいことも考えず。」

「一緒に作業した『仲間』という

意識があれば、子どもが卒業しても時間がたったとしても、何かつながりを持っていられるのではないのでしょうか。その時々でできることを探して、学校の協力を仰ぎながら活動していこう。」

教頭先生からは、「いろいろなPTAの活動があると思います。

内容や形態は学校や地域によって様々です。コミュニケーションの取り方は多々あると思いますが、『話せばわかる』ということも多いですね。会を通して、フランクに話ができることはとてもありがたい。学校改善なくてはならない要素だと思います」とのコメントをいただきました。

作業の終了後、場所を移して意見交流会が行われます。これが楽しみで参加される方も多いようです。中には、「大手を振って飲みにいけるから」と言われる方もいました。こちらからの「回結力がわかるお写真を撮らせてください」とのお願いに、「それじゃ人間ミラミッドでも作りますか?」「あ、ほく一番上でもいいですか?」など掛け合いの息もぴったり(もちろん冗談です)。取材中も楽しみながら活動されている様子が伝わってき



ました。何か「苦労はなかったのか、との質問には「何にもなかったね」とのお返事がかえってきました。できることをできる範囲で、力まずに続けているのが活動の秘訣なのかもしれません。」

(桑名市 高橋淑子SP)

「カンガルーム」を訪ねて

四日市市病児保育室「カンガルーム」

所在地：四日市市中部8番17号（医療法人里仁会「二宮病院」東隣）

電話 059-351-4152

開室日時：月曜日～土曜日 午前8：45～午後5：30

「カンガルーム」を開設するまで

四日市市は、平成8年に、「四日市市少子化対策の基本的な考え方」の具現化の一環として、
○安心して子どもを産み、育てることができる社会環境づくり
○子育てをしながら働き続けることができる職場環境づくり
○子どもを産み育て暮らしやすいまちづくり



を基本目標にかかげ、「四日市市工
ンゼルプラン」を策定しました。

さらに、平成11年には、乳幼児
健康支援一時預かり事業として、
四日市市病児保育室が認定され、
平成12年8月、二宮病院の敷地内
に、「カンガルーム」を開設するこ
ととなりました。

二宮病院は、四日市市で100
年以上の歴史があり、市民にも親

しまれている病院で
す。小児科専門医の
二宮剛美先生は、四日
市市工ンゼルプランの
策定委員でもあり、社
会的な意義があること
だからと、経済的なり
スクも覚悟で「カンガ
ルーム」の開設を引き
受けられました。

働くお父さん、お母さん をバックアップ

女性の労働力率は、
年齢階層別にみると、
30代を底とするM字
カーブを描き、依然と
して、結婚、出産、子
育て期に仕事を中断す
る女性が多くなってい
ます。そのような現状のなかで、
仕事を持つ、子育て中の父母にとっ
て、「カンガルーム」はとても心強
い味方です。

「カンガルーム」は病氣回復期に
あり、通園、通学が困難で、集団
生活に不安がある子どもを一時的
に預かる施設です。

利用できる児童は、

①四日市市内に居住している



② 保育所、幼稚園、小学校等に通園または通学している

③ 保護者の勤務等の都合により、家庭での育児を受けることが困難である

この3つの要件を満たしていることが必要です。そのうえで、事前登録をし、利用申込み後に、二宮病院で診察を受け、利用許可を受けるシステムになっています。

利用者の年齢は、0歳から2歳が多く、年間1,000名以上の利用があり、十分に活用されている様です。

病児に配慮された、安心、安全な施設

- ・ 安心して病時期及び病後期が過ぎるよう、
- ・ 防犯のため、迎えの方の顔をインターホンのモニターで確認して入口のロックを解除する
- ・ 広くて明るい、子どもと手をつないでもゆったり上れる階段を設置



- ・ 室内は、病原菌が漂う空気が蔓延しないように、熱交換型換気扇を使用し、空気を清浄化する
- ・ 食事は、管理栄養士が調理しており、消化不良症状に配慮して、重湯、3分粥、5分粥、全粥、軟飯と副食を提供する

など、行き届いた配慮がされています。また、日ごろの「カンガルー」のできごと、発熱などへの対応のしかた、スタッフの研修の様子などを詳しく知らせる『カンガルー通信』を発行して、利用者とのコミュニケーションを図っています。さらに、病児保育施設としては初めてISO9000の品質マネジメントシステムを承認を受け、施設の安全管理体制も整っています。

利用者の声

「近くにおじいちゃん、おばあちゃん

んもないので、仕事を長く休むわけにもいかず、カンガルーがあつて助かります。その上、病院併設なので安心できます。」

「居心地の良い設備と、行き届いたスタッフの配慮で、元気になった子どもが、こちらの保育園に行きたいと言つて、困ることがあります。」等、リピーターがとても多いようです。

今後の子育て支援について

四日市市児童福祉課に今後の子育て支援事業についてお聞きしたところ、平成24年度に1園、平成25年度に1園、認可保育所を新設予定とのこと。病児保育室の設置については、今のところ増設の予定はないそうです。



カンガルーの二宮剛美先生は、「病児保育室を設置することも

大切ですが、病児保育の必要がなくなる働き方ができる、ワークライフバランスの環境が整った世の中になることが理想です。」とおっしゃっていました。

(四日市市 石田壽賀子 S.P.)

身近な“場面”から男女共同参画を!!

～わあむ津 紙芝居部活動より～

紙芝居出前授業

問合わせ先 津市市民部男女共同参画室

TEL 059-229-3103 FAX 059-229-3366

【わあむ津HPアドレス】 <http://www.warm-tsu.org/>

難しくとらえられがちな「男女共同参画」について、生活の身近なところから理解を深めてもらいたい・・・そんな思いから、津市男女共同参画フォーラム実行委員による「わあむ津 紙芝居部」の活動が始まりました。

津地域男女共同参画推進サポーターの小林小代子さんは、津市男女共同参画フォーラム（わあむ津）実行委員会のメンバーでもありません。

「わあむ津実行委員会」では、全メンバーが紙芝居部に所属しており、男女共同参画啓発紙芝居を作成・上演しています。



小林サポーターをはじめ、紙芝居部の部長である竹内文子さん、田尻易子さんにその活動についてお話を伺いました。

「紙芝居」を活用して「男女共同参画」に対する理解を深めたい!!

わあむ津実行委員会から生まれた紙芝居部。5年前から活動を続け、現在、自作の紙芝居が26作あります。

実行委員会メンバー24名（2012年2月現在）全員が紙芝居部員として、フォーラムでの電子紙芝居上演、小学校での出前授業などを行っています。

他県の紙芝居をモデルに、津独自のものを作り、それを使って、さまざまな方に生活の身近なところから男女共同参画を理解していただきたい!!そんな思いで始めました。

市フォーラム実行委員会が、自作の紙芝居を持って地域での啓発に活用するという取組は、全国でも珍しく、平成21年度に東京で開催された「男女共同参画社会づくりに向けての全国大会」では、会場ロビーに活動状況が展示され、全国の参加者からも賞賛の声をい

いただきました。

出前授業を通じて

現在、主な活動として、年に一度実施される津市男女共同参画フォーラムにおいて電子紙芝居の上映（紙芝居を電子ファイルにし、舞台スクリーンで上映）、小学校への出前授業があります。

出前授業は3年前から実施しています。人権学習授業などを活用し、時には、近隣の小学校何校かで合同授業を行ったり、フリー参観日に保護者の方にも一緒に参加していただいたり、それぞれの小学校、地域のニーズに合わせた形で実施しています。





出前授業では子どもたちを前に、それぞれ感じたことをこちらにも受け止めながらの授業になります。子どもたちはとても素直で、思ったことを率直に表現してくれるので、こちらでも楽しくなります。「あ、分かってくれてるんやー」と、肌で感じることができ、それがまた、活動の原動力になります。授業は、紙芝居部のメンバーのうち、そのときに参加可能な10人ほどが役割分担を行っています。メンバーは、皆、それぞれの仕事やその他の活動もあり、忙しい中での紙芝居部活動ですが、この出前授業に行くことが、自分自身にとっても学びにつながり、また、子どもたちからたくさん元気をもらうことができ、楽しみながら活動しています。

今年度の活動

今年度は、一身田小学校と修成小学校で実施しました。一身田小学校では、4年生の児童に対し、紙芝居「大きくなったらどんな仕事をしようかな?」という女性消防士さんのお話を上演しました。また、実際、津市で活躍している女性消防士の方にも登場していた

とき、消防士の仕事についてお話を伺ったり、防火服の試着をさせていただいたりしました。最初は、男性の仕事、女性の仕事という感覚があっても、子どもたちは素直に物事を吸収する力を持っているので、授業後の感想では、「これは男の人の仕事と違っていただけ、女の人がやってもいいんやなあって分かった」など、素直に思ったことを表現してくれます。

また、紙芝居を見て理解してもらっただけではなく、それを今日から実践しよう!というところまで持っていきたいと思っており、その観点から、身近で自分たちがす



く実践できる内容にと工夫して
います。例えば、紙芝居「僕たち
で今日の夕食作ったよ」では、お
母さんが仕事で帰りが遅くなり、
自分たちで夕食の支度をする兄妹。
お父さんは連絡をもらい急いで帰
り、子どもたちと協力して後片付
けなどをします。そういった身近
ですぐに実践できるところから始
めようという部分がとても大切だ
と思っています。そのためには、
子どもたちだけではなく、親世代
の方達にも男女共同参画を理解し
ていただき、子どもたちと一緒に
取り組んでいただくことが大事だ
と考えています。

これからの活動

今後は、フリー参観日などでの
出前授業をもっと実施し、保護者
の方にも授業に参加していただき、
子どもたちと一緒に考えていただ
くきっかけづくりができればと
思っています。

また、中・高校生など若い世代
に向けた啓発や、津市内だけでは
なく、県内、県外にも活動の場を
広げていきたいと考えています。

これからも、紙芝居を通して、
男女共同参画の普及啓発を行って

いきます。みなさんの地域や学校
で、紙芝居を活用した出前授業の
ご要望があれば、是非ご連絡下さ
い。お待ちしております。

わあむ津 紙芝居について

～例えば、こんな紙芝居があります。～



大きくなったらどんな仕事をしようかな？



今日の夕飯は僕が…



名前では呼ばれるってうれしい



結婚したら仕事どうする？

このほかにも様々なテーマによる紙芝居があります。
詳しくは、わあむ津HPをご覧ください。



堀内久子さんは、82歳。紀北町のマルキ商店でお手伝いさんとして、毎日元気に働いています。料理のレパートリーは豊富で、掃除、洗濯なんでもこなします。

夫との出逢い

幼い頃にご両親を亡くされた堀内さんは、学校卒業後、名古屋の部品工場へ働きに出ます。しかし、時は戦時中、勤めていた工場が空襲に遭い、仕事の仲間を失ってしまいます。当手を振り返り、「空襲で焼け野原になった光景は未だに

「母ちゃんなめとったらあがん」



堀内 久子さん

1928年生まれ。紀北町出身。結婚後、3人の子どもに恵まれるも、夫と死別。病院でまかないの仕事で定年まで勤め、現在はお手伝いとしてマルキ商店に勤務。

思い出す」とおっしゃっていました。

終戦後、生まれ育った紀伊長島に戻り、製氷会社に勤め始めた堀内さんは、鯉船に乗っていた漁師の夫と結婚されました。結婚後は、会社を辞め、パートとしてイサバヤ（水産加工）の仕事をしつつ、7年の間に長女、次女、長男と子宝に恵まれ、子育てに奮闘する日々が続いていました。

夫との別れ

長男が生まれてまもなく、夫が病に倒れてしまいます。1年ほど入院生活が続いた後、家での療養が始まりました。お医者さんには3か月もたないと告知され、家に帰ってから1か月ほどで亡くなってしまいました。「普段は背が高く

て、おとなしい、滅多に怒らない夫だったので、その1か月間は病気のせいもあって、子どもに手を上げたり、私に怒鳴ったりして大変でした。普段はそんなこと無かったんですけどね」と当時を振り返られます。それからの堀内さんは、女手ひとつ、3人の子どもを育てていくことになりました。

がむしゃらな日々

はじめは太陽館という映画館で3年間働きました。切符切りに売店、掃除何でもやって、子どもが幼稚園から家に帰らずに、仕事場に来て映画を観てから一緒に帰ったりもしました。その映画館が潰れてしまっただけで、缶詰工場で少し働いた後、声をかけてもらった回生病院でまかない作りの仕事

に就きました。「別に料理が得意だった訳じゃなかったんですけどね」。朝は6時半には出勤して、味噌汁炊いたり、おかゆ炊いたりして。糖尿病だったり高血圧の患者さんは薄味にしないといけないから、栄養士さんの指示を聞いて別々に作っていました。その時のレシピアを写した紙を家に持って帰ってレパートリーが増えていきました。

職場の人や医者の先生達も皆さうい人で、子どもの運動会の時も休ませてもらったり。先生の方の掃除を手伝った時なんて、「久子さん、ずーっとおっけてくれ。あんなの部屋もちゃんと用意するで」と言われたりして、本当に周りの人に支えられて来ました。

一人二役



マルキ商店
住所：紀北町紀伊長島区
長島2039-2
TEL：0597-47-0866

子育てでは、近所に住んでいた夫の姉に良く面倒を見てもらいました。仕事が忙しい時は、家に帰ってきた子どもたちの世話をしてくれたり、遠征について行ってもらったこともありま。それに、上の子が小学校の高学年になった頃には、下の子を見てくれたりして、とても助かりました。病院でまかないの仕事をしている時は、子どもたちが昼食を食べに来たりもしていました。

仕事が終わりに家に帰って、部屋が散らかったりすると「父ちゃんないゆうて、母ちゃんなめっとつたらあかん」と言っていて、父親の代わりも私がいけないといけなから、そうやって怒っていました。長男が「姉ちゃん（姉妹）は2人あるでええ、わしは（兄弟がおらず）男1人やもんでさ、もっと産んでくれ」と言ったときは、さすがに困りましたね。

定年退職後

定年で回生病院を退職したんですけど、うちにいるのが嫌いで、働きたくて。そしたら、マルキ商店の方に「久子さん、来てさ」っ

て言われて、「それじゃ行くか」ってことで今まで働いています。

今は日舞を習っているという堀内さん。先生に叱られながらも練習し、インタビュ어의日には、ちょうど町内放送で年に一回の大舞台「芸能の夕べ」で踊る堀内さんの様子が放送されました。

今が一番幸せとおっしゃる堀内さん。楽しみにしていることを尋ねると「やっぱり孫かな、今はひ孫やけどな」と、娘さんの家族と温泉旅行に行ったお話などを楽しく話してくれました。（平成23年10月取材）



子どもと大人が共に育ち合える 生き易い地域社会を築いていきたい



始まりは紀南おやこ劇場

そもそもの出発は昭和58年発足の「紀南おやこ劇場」でした。当初は生の舞台鑑賞と子どもの体験活動が中心でしたが、時代の流れに伴い、会員の減少による資金不足で舞台鑑賞もままならなくなり、社会の歪みであえいでいる子どもたちの現状に胸を痛め、何とか私達にできることはという思いで様々な子育て支援活動へとその活動の形を変えていきました。

キャンプや創作活動など遊びを通した小学生の自然体験活動に始まり、乳幼児の子育て支援へと。週1回の乳幼児親子広場の開催や月1回のベビーマッサージ、そして子育て中のお母さん対象のワークショップ等、さまざまな企画を通してお母さん達に気付きや学びの場を提供し、幼児に向けては



田岡 陽子 理事長 (左)
小山 芳子 副理事長 (右)
特定非営利活動法人
子どもステーションくまの
所在地：
三重県熊野市久生屋町 163-2
TEL : 0597-89-5633
FAX : 0597-89-5643
E-mail : kinan@zb.ztv.ne.jp

本の読み語りによる子育て支援を行ってきました。

学童保育事業に取り組み

その後、以前から活動を通して交流のあった高校生ボランティアグループ「びやくや(びやくや前)」のリーダー黒瀧一輝君から、大学卒業後は熊野で学童保育をやりたいのでいっしょにしませんかという申し出があり、地域のたくさんの方々のご支援を受け、幾多の困難を経て熊野市に働きかけ、平成17年の春に民設・民営の形で紀南おやこ劇場の事業として「くまのっ子学童クラブ」の開所に至ります。

NPO法人子どもステーションくまの誕生

ここまで来て、これまでの実績を生かし今後の活動に向けて行政



を含めた様々な団体とネットワークして行くためにもNPO法人格を取得する必要性を感じ、ついに平成18年4月、「紀南おやこ劇場」はNPO法人「子どもステーションくまの」へと生まれ変わりました。7名の児童から始めた学童も

年を追う毎にその規模は膨らみ、現在では3事業所において80名程度の児童が登所しております。平成21年にお隣の御浜町から依頼を受け開始した「みはまっ子学童クラブ」も、平成24年度からは御浜町の指定管理者として専用新施設にて再スタートいたします。

熊野市ファミリー・サポート・センターの委託

また、熊野市が10年程前に開催した21世紀職業財団による保育サポーター育成講座を受講したメンバーが立ち上げた、子どもグループ「キッズルーム・コアラ」を引き継ぐ形で、「子どもステーションくまの」が子どもの育ちに責任を持ったサポーターのコーディネートや質の向上などを目指して、保育サポート事業として確立させてきました。しかし、当団

体で事業を継続していくのは、研修や広報・連絡調整等資金的に困難なため、熊野市にファミリー・サポート事業に取り組んでもらえるように働きかけ、ついに平成23年6月から、熊野市ファミリー・サポート・センターを「子どもステーションくまの」に委託していただけることとなりました。

他にも地域間・世代間交流を目的としたソーラン踊りのチーム「きしゅう（きしゅう間）おどろたい（おどろたい）」やチャイルドラインMEEネットワークの東紀州地域の実施担当として、地域の皆さんの皆さんと協力し合い育ち合いながら、おかげ様で今、やっと少し安定した状態で子育て支援の一端を担わせていただいております。

理念とミッション

私たちは、子どもたち一人ひとりがそれぞれ人格を持った人として、自信（自己肯定感）と誇り

（自尊感情）を持つて主体的に生きて行けるよう、さまざまな活動を通してサポートしていきます。そして、子どもの権利条約を基本とした子どもの社会参画の場を提供し、子どもと大人が共に育ち合える生きやすい地域社会を築いていくことを目指します。



三重県男女共同参画推進サポーターについて

三重県男女共同参画推進サポーターは、県や市町、関係機関と連携・協働しながら男女共同参画に関する理解の促進や意識の普及を行い、地域における男女共同参画を進めることを目的として、三重県が養成、設置しているものです。平成24年2月1日現在、32名の方が三重県知事から委嘱を受け、各地域で活動をしています。

この活動報告集は、男女共同参画推進サポーターが、活動の一環として作成したものです。

三重県男女共同参画推進サポーター（平成24年2月1日現在）

地域	市 町	名 前	地域	市 町	名 前
桑 員	桑 名 市	高 橋 淑 子	南 勢 志 摩	伊 勢 市	奥 野 三 智 子
	東 員 町	山 崎 ま ゆ み		伊 勢 市	山 本 は る み
	い な べ 市	門 脇 よ し ゑ		鳥 羽 市	濱 口 和 美
	い な べ 市	山 本 た か 代		鳥 羽 市	広 野 克 子
三 泗	四 日 市 市	石 田 壽 賀 子		鳥 羽 市	野 村 薫
	朝 日 町	稲 垣 富 美 子		志 摩 市	相 田 め ぐ み
	朝 日 町	片 山 和 子		志 摩 市	加 藤 玲 子
	川 越 町	寺 本 詩 野		南 伊 勢 町	山 本 眞 壽 美
鈴 亀	鈴 鹿 市	寺 井 和 子	伊 賀	伊 賀 市	竹 内 文 子
	亀 山 市	一 見 八 郎		伊 賀 市	原 谷 順 子
	亀 山 市	佐 野 孝 子		名 張 市	坪 田 公 兒
津	津 市	小 林 小 夜 子	紀 北	紀 北 町	松 生 茂 子
	津 市	山 岡 勝 江	紀 南	熊 野 市	福 山 和 子
松 阪 多 気	松 阪 市	菅 原 潤 子		御 浜 町	温 千 奈 美
	松 阪 市	伊 藤 直 子		紀 宝 町	大 原 麗 子
	明 和 町	山 川 孝			
	多 気 町	岡 井 一 代			

名張市長インタビュー

名張市長インタビュー

2011年10月21日 亀井利克市長へ、男女共同参画推進サポーターの坪田公兒さん（司会、名張市在住）、竹内文子さん（伊賀市在住）、原谷順子さん（伊賀市在住）から男女共同参画に関するインタビューを行いました。

名張市における男女共同参画の現状

（竹内サポーター）

名張市では、審議会における女性委員の割合、市議会における女性議員の割合、女性管理職の割合等が県内市町の中で大変高くなっています。これらの成果は亀井市長のリーダーシップの発揮によるところが大きいと思われませんが、どのようにリーダーシップを発揮されているかお教えいただけませんか。

（市長）

ノルウェーでは一方の性が40%以下となっていないけないクォータ制を導入した後、たくさんの女性の首長が誕生するなど、女性の参画が大変進んでいます。名張市においても意思決定の場に女性もどんどん参画いただきたいと考え、各種審議会等の女性委員の割合を40%以上を掲げました。現在、各種審議会等の女性委員の割合は県内14市において最も高くなっているものの30%程度にとどまり、40%には至っていません。関係する各種団体へ強く働



きかけるなどして、ほとんどの審議会では40%以上になっていますが、女性に関係者に全くみえなかつたり、女性ご本人が固辞されたりするケースもあり、苦労しているところです。

女性議員についても県内29市町で最も高くなっていますが、こちらにも40%には至っていません。

女性管理職についても伊賀市等について高くなっていますが、さらに高い役職に就く職員を増やすことが課題であると認識しています。

男女共同参画に関する今後の取組

（竹内サポーター）

平成17年9月に「名張市男女共同参画推進条例」が制定されました。さらに、平成19年3月には平成27年3月までを実施期間とする「名張市男女共同参画基本計画」を策定され、名張市における男女共同参画を推進されています。基本計画期間の概ね半分を経過したところですが、今後の約4年でどのようなことに取り組んでいこうと思われていますか。

（市長）

名張市は大阪府等からの転入者が多く、これらの方々が一挙にリタイアされて大変高齢化が進んでいます。高齢者福祉を充実させていかなければなりません。それを支える生産年齢人口を増加させることが課題であると思っています。生産年齢人口を増加させるためには、より魅力のある政策が必要ですが、その柱が雇用の場の確保と「産んで育てるに優しい町」であると考えています。

まず、雇用の確保については、



企業誘致を積極的に行っています
が、さらに閉校となった学校の跡
地等も有効活用して、一層の雇用
をうみだしていきたいと思ってい
ます。

次に「産んで育てるに優しい町」
については、年間を通じて保育所
の待機児童をゼロにする取組を推
進していきたいと考えています。
4月1日現在では保育所の待機児
童をゼロにしていますが、数が月
経過すると40人程度が待機する状
況となっています。ひとり親世帯
等において困難を抱えている女性
や働きたくても働けない女性も少
なからずいらっしゃいます。名張
市では、これらの方々を生活保護
で支えるのではなく、意欲のある
方々には積極的に社会へ出て、活
躍いただく男女共同参画の取組で
支援していきたいと考えています。
女性が社会参画しやすい環境づく
りを行うためには、まずは年間を
通じて保育所の待機児童をゼロに
することが不可欠であると思ってい
ます。

的に取り組んでいるというところを
発信していきたいと思っています。

画 防災対策における男女共同参

(原谷サポーター)

東日本大震災は、極めて深刻な
被害をもたらし、また9月の台風
12号・15号の襲来も県内をはじめ
全国各地に大きな被害をもたらし
ました。防災分野における男女共
同参画の推進は、防災の観点から
も男女共同参画の観点からも重要
な課題であると思われませんが、今
後どのように女性の意見を反映し
た防災対策に取り組まれますか。

(市長)

非常に難しい問題です。防災対
策は自助、共助の順で重要である
と市民の皆さんにお話をしていま
す。

自助、まず自らの備えは大丈夫
か、3日間の食糧や救急の常備薬
を入れた防災袋の準備はできてい
るか、家具等の転倒防止はできて
いるかなどを折に触れお話してい
ます。これら自助の部分において、
女性の気づきや思いが反映されな

ければなりません。

続いて共助ですが、「絆」がしっかりとっている地域は、比較的被害が最小限にとどまり、また復旧作業にも男女が固定的な役割にとらわれずに共同で取り組み、いち早く復旧が進んでいる印象をお受けします。

また、避難所での生活等において、女性や子育てのニーズを踏まえることは必要不可欠であることから、女性職員を災害対策本部の構成員にする必要があると思っています。

やまがた

(市長)

名張市では毎年度、総合計画「理想郷プラン」にかかる市民意識調査(アンケート)を実施しています。その設問の中で「男は仕事、女は家庭といった男女の固定的な役割分担」に同感するか否かをお聞きしていますが、固定的な役割分担に同感しない割合が非常に高く、男女共同参画の意識が市民の皆さんに浸透していることがご理解いただけます。この成果は行政だけでなく、男女共同参画に

関する団体等による市民活動が活発に展開されていることによるものであると自負しているところで

取材を終えて

女性職員の管理職登用にあたり、辞退者が多いといふことは、個々に様々な要因があると推察しますが、まだまだ女性も男性も自分らしく生きていける環境ではないと思いました。住みやすい名張市のいいところを活かしつつ、加えて男女共同参画を推進できるように、市長のますますのリーダーシップを期待しています。私達市民活動団体も微力ながら、様々な場所で大きな声を出し続けていきたいと思っています。

(三重県男女共同参画推進

サポーター 坪田公兒)

審議会における女性委員の割合、市議会における女性議員の割合、女性管理職の割合等が大変高くなっていますが、現状に満足することなく取組を進めようとする市町のリーダーシップに感銘を受けました。また、市民意識調査

においても、名張市民の男女共同参画についての意識の高さがうかがわれました。今後は男女共同参画推進サポーターとして、地域において男女共同参画に関する理解の促進や意識の普及に努めていきたいと思っています。

(三重県男女共同参画推進

サポーター 竹内文子)

初めてのインタビュアーであったこともあり、大変緊張しました

が、市長ご自身が熱心に思い等を語ってください、リーダーシップの強さを感じるとともに、とても親近感を覚えました。知人である名張市在住の方からは「産んで育てるに優しい町」にするため、精力的に取り組まれるなど、期待できる市長であるとうかがっています。今後は、今後ますます発展されるであろうことを確信しました。

(三重県男女共同参画推進

サポーター 原谷順子)



「みえチャレンジサイト」

“チャレンジしたい女性を応援する” サイトです。

※「みえチャレンジサイト」では、主な支援機関や講座・イベントの紹介のほか、活躍している女性へのインタビューなど、チャレンジに役立つ情報をお届けしています。

「何から始めたらいいんだろう」

「はじめの一歩を踏み出すのが不安」

「どこに相談したらいいのかわからない」と思ったら

<http://www.pref.mie.jp/CHALLENGE/>「みえチャレンジサイト」で検索してください。

みえチャレンジサイト
Challenge

チャレンジしたい女性を応援します！

メインメニュー

- ▼ チャレンジしたい！！
 - ▶ みえチャレンジプラザ
 - ▶ 働きたい
 - ▶ キャリアアップ・スキルアップしたい
 - ▶ 起業したい
 - ▶ 農林水産分野で活躍したい
 - ▶ ボランティア・NPOなど地域で活動したい
 - ▶ 育児・介護の支援サービスを知りたい
 - ▶ チャレンジ支援機関一覧
- ▶ チャレンジって何？
- ▶ 講座・イベント情報
- ▼ チャレンジ事例
 - ▶ 私たちのチャレンジの軌跡
 - ▶ 事例紹介
- ▶ サイトマップ
- ▶ お問い合わせ
- ▶ リンク集

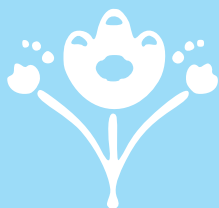
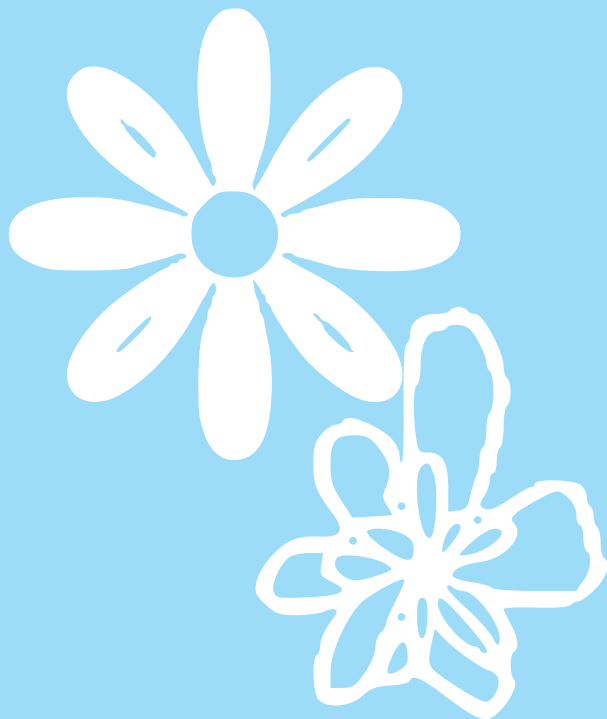
トップページ

▼ チャレンジテーマ

- 働く**
- キャリアアップ
スキルアップ**
- 起業**
- 農林水産分野**
- 地域活動**
- 育児支援
介護支援**

▼ 新着情報

- 平成24年3月5日 「みえチャレンジプラザ」開鎖のお知らせ
- 平成24年1月10日 「議員卸礼続出！人気講座の作り方」・「思わず手にとるチラシの作り方」講座参加者を募集します。（募集終了しました）
- 平成23年10月5日 11月12日（土）男女共同参画フォーラム～みえの男女2011～が開催されます。（終了しました）
- 平成23年9月26日 2011年（平成23年）版 三重県男女共同参画年次報告をアップしました。
- 平成23年8月24日 「23年度第1回三重県男女共同参画推進サポーター研修・全体会議の概要」を掲載しました。
- 平成23年3月31日 「女性のチャレンジ事例集」を刊行しました。
- 平成23年3月31日 「男女共同参画基本計画策定促進アンケート調査」の結果を公表します。



三重県男女共同参画推進サポーター活動報告集

平成24年4月

三重県環境生活部男女共同参画・NPO課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地 TEL059-224-2225 FAX059-224-3069